

第1回農林公共事業評価審議会
事後評価 No. 1

農業農村整備事業
経営体育成基盤整備事業
(経営体育成型)

ささもとあらい
篠本新井地区

山武農業事務所

経営体育成基盤整備事業とは

1 事業の目的

ほ場の区画拡大・汎用化により

- ① 担い手の育成
- ② 生産コストの低減

を図る。さらに土地利用型農業を確立し、地域農業の振興を図る。

2 採択要件

- (1) 受益面積が概ね20ha以上
- (2) 区画整理により形成される30a以上の区画が
受益面積の2／3以上
- (3) 担い手農地利用集積率を50%以上に向上すること。

地区の概要

事業目的： 本地域は、千葉県のほぼ中央北部に位置する２級河川栗山川沿岸に展開する平坦な水田地帯である。本地区のほ場は、非補助土地改良事業で昭和16～20年度に施工された10a区画であり、水路は用排兼用、地下水位は高く、農道は狭くて大型機械の導入が困難であることから、区画整理によりこれらの問題を解決し、営農労力の省力化、生産性の向上、農地の利用促進、集落営農の育成を図ることを目的とする。

事業主体： 千葉県

関係町： 横芝光町

受益面積： 229.8ha

総事業費： 4,811,391千円

工期： 平成20年～令和3年（14年間）

主要工事： 整地工：A=229.8ha（水田219.6ha、畑10.2ha）

道路工：L=24.4km

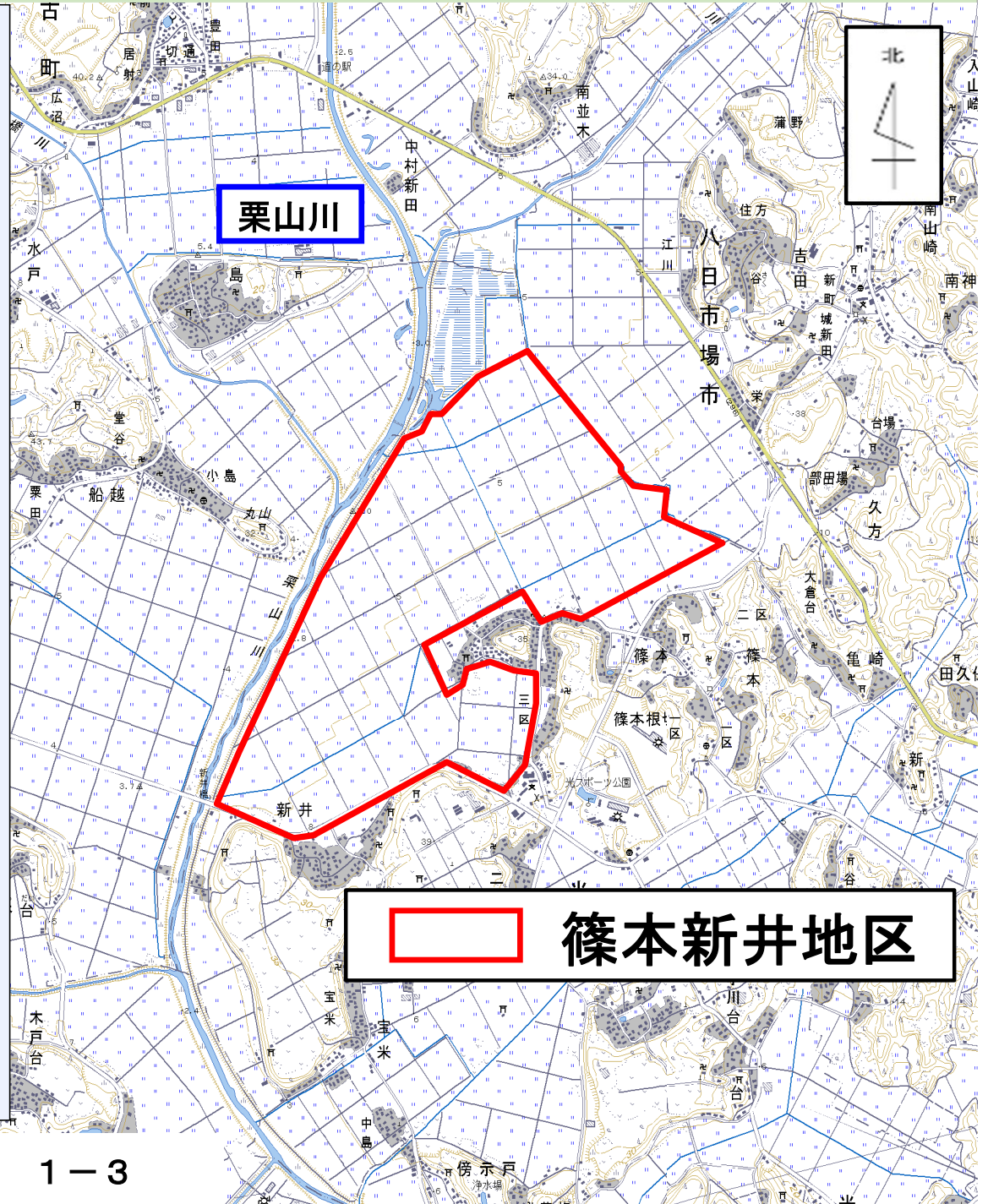
用水路工：L=20.0km（パイプライン）

排水路工：L=22.0km（U字溝及びB型柵渠）、排水機場 2箇所

暗渠排水工：A=219.6ha（地下水位制御システム「フォアス」）

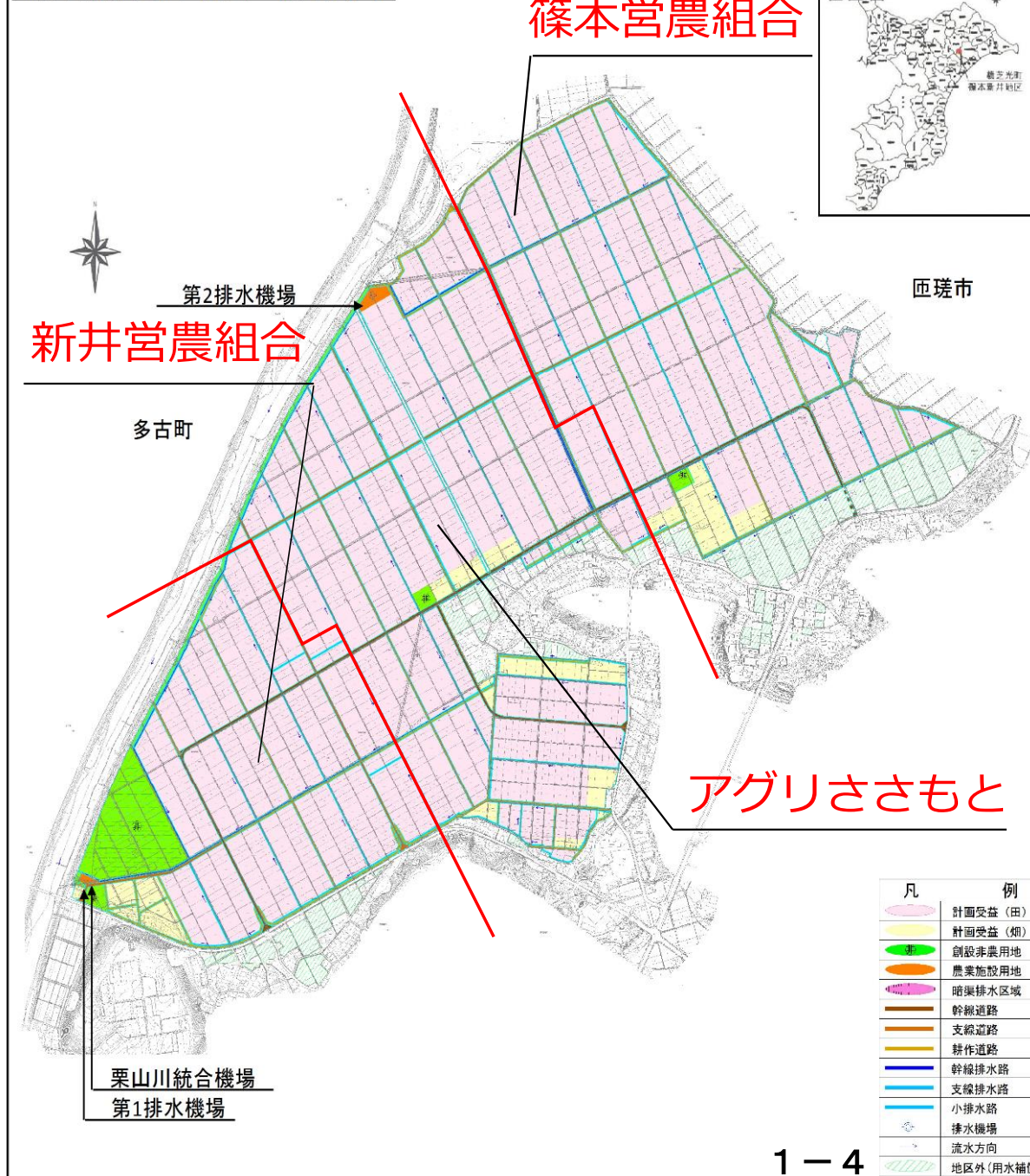
負担区分： 国50% 県30% 町10% 地元10%

位置図

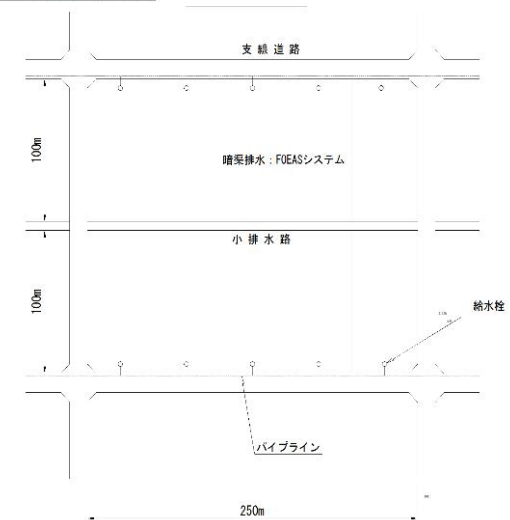


計画一般平面図

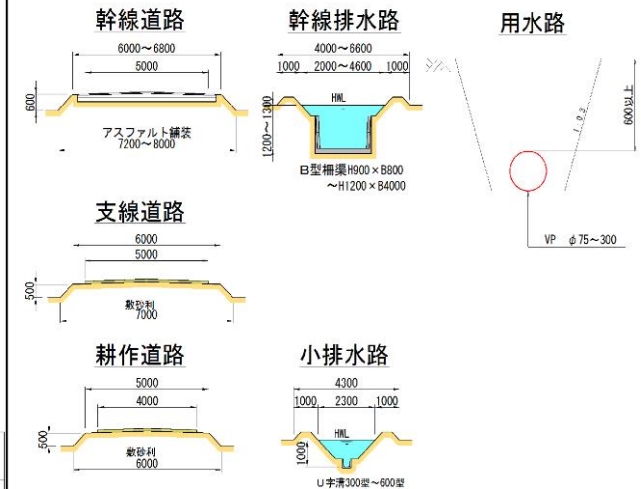
篠本新井地区 計画一般平面図



標準区画割図



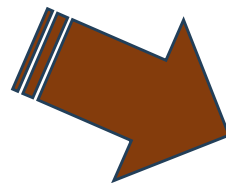
標準構造図



凡	例
計画受益(田)	計画受益(畑)
創設非農用地	農業施設用地
暗渠排水区域	幹線道路
支線道路	耕作道路
幹線排水路	支線排水路
小排水路	排水機場
流水方向	地区外(用水補償)

主要工事① 整地工

平成20年(整備前)

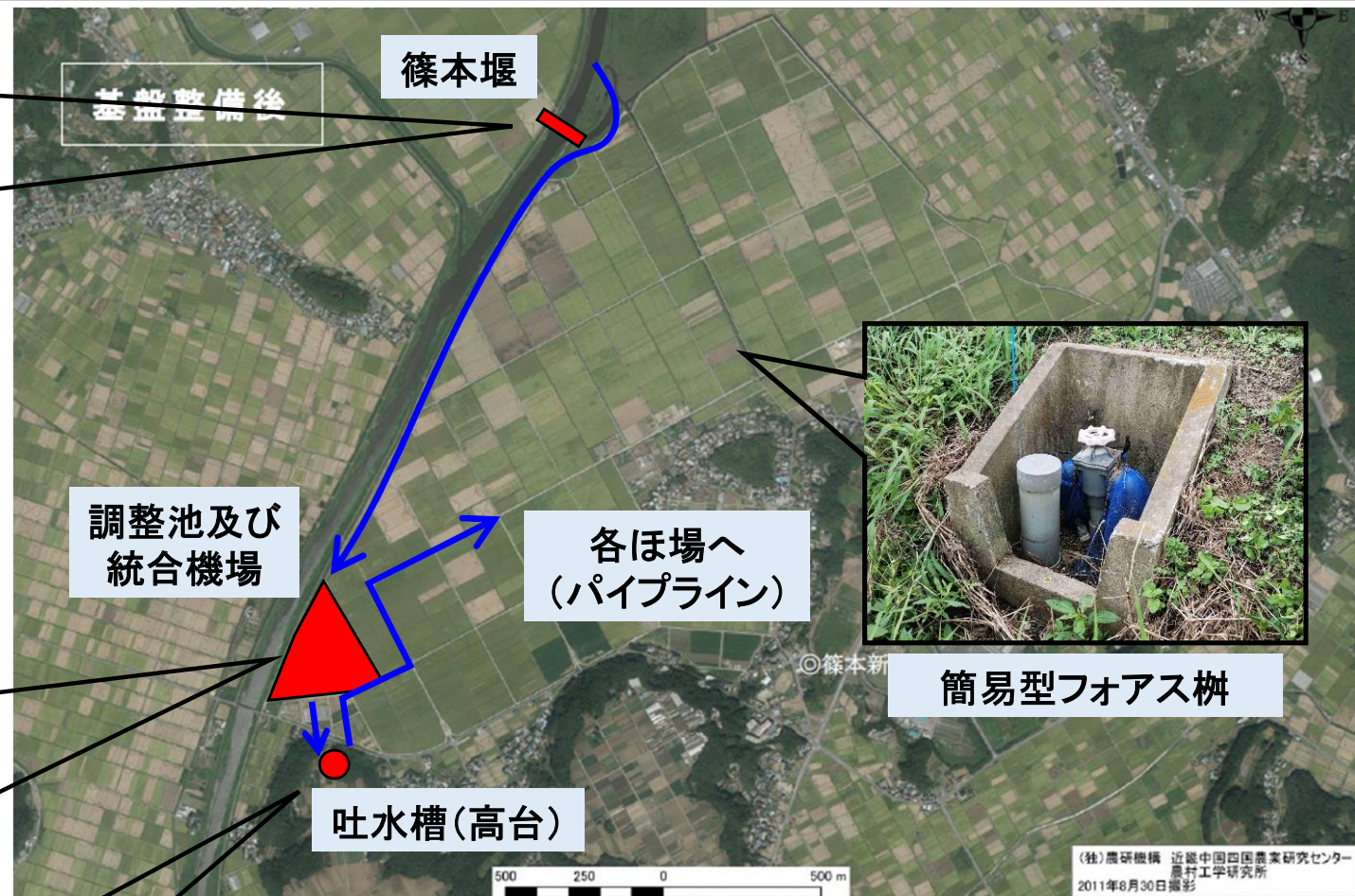


1区画10a → 30a~1ha

令和3年(整備後)



主要工事② 用水路工

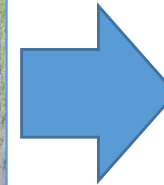
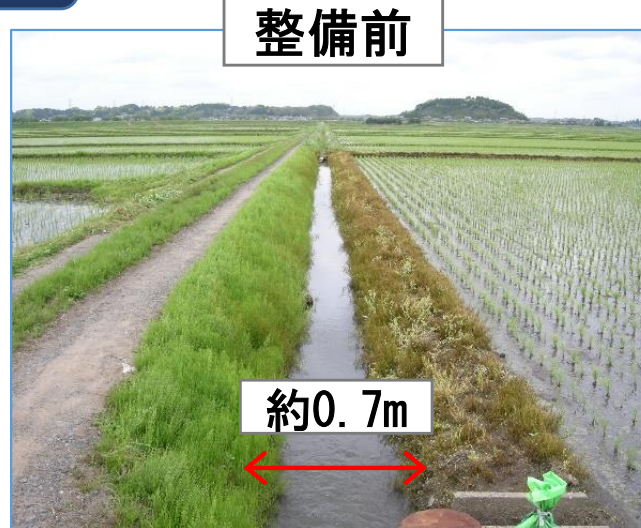


- ・ 国営両総用水事業により、篠本堰、栗山川統合機場、吐水槽等の用水施設が更新整備
- ・ 栗山川から取水した用水を、いったん統合機場から高台の水槽に揚水し、その高さを活かして配水
- ・ 併せて末端である本地区も用水をパイプライン化
⇒ 国営事業の効果発現、用水管理の合理化・省力化

主要工事③ 排水路工・道路工

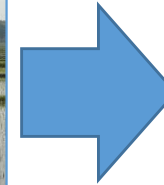
排水路工

- ・土水路をU字溝・B型柵渠に整備
- ⇒排水改良による生産性の向上



道路工

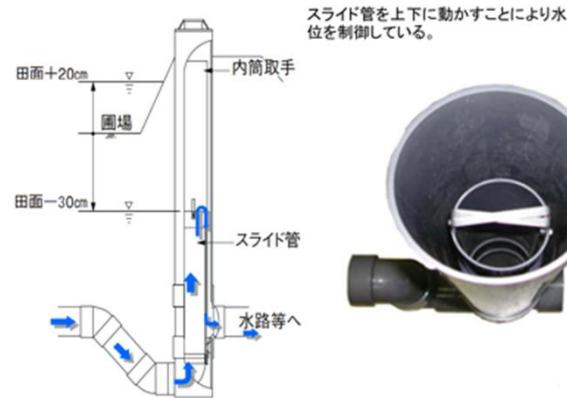
- ・道路の拡幅、舗装（砂利、As）
- ⇒大型機械の導入による農作業の効率化



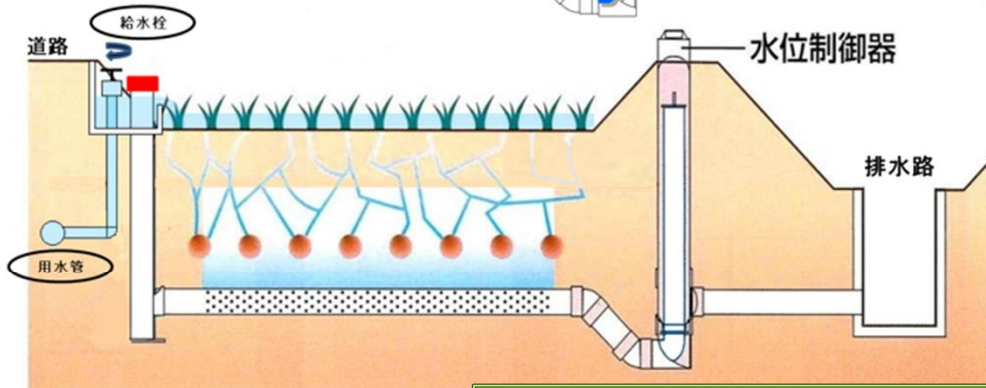
主要工事④

暗渠排水工

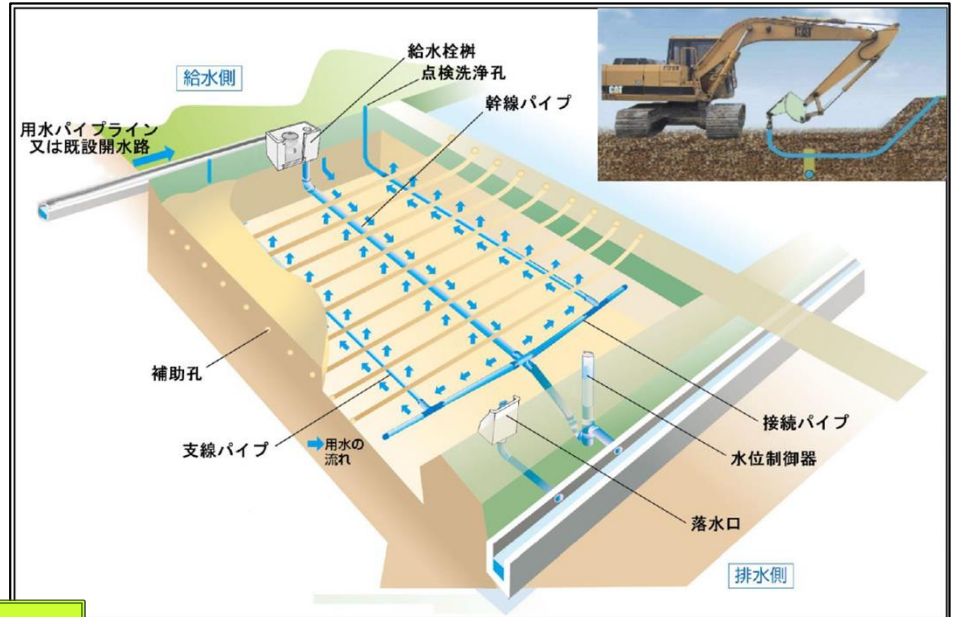
フォアスの仕組み



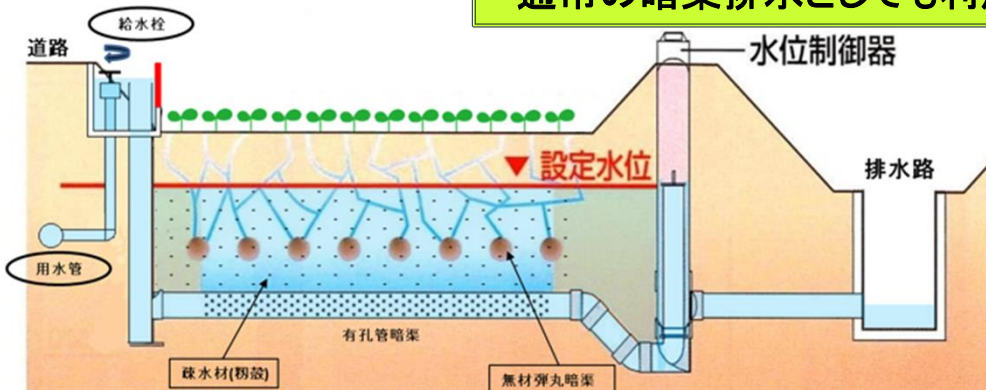
水稲栽培時の運用 (地表かんがい)



- ・地下水位制御システム「フォアス」を導入
⇒地下水位の管理が容易になり、輪作体系が確立、経営の安定化につながる



麦・大豆等栽培時の運用 (地下かんがい)



フォアスのメリット

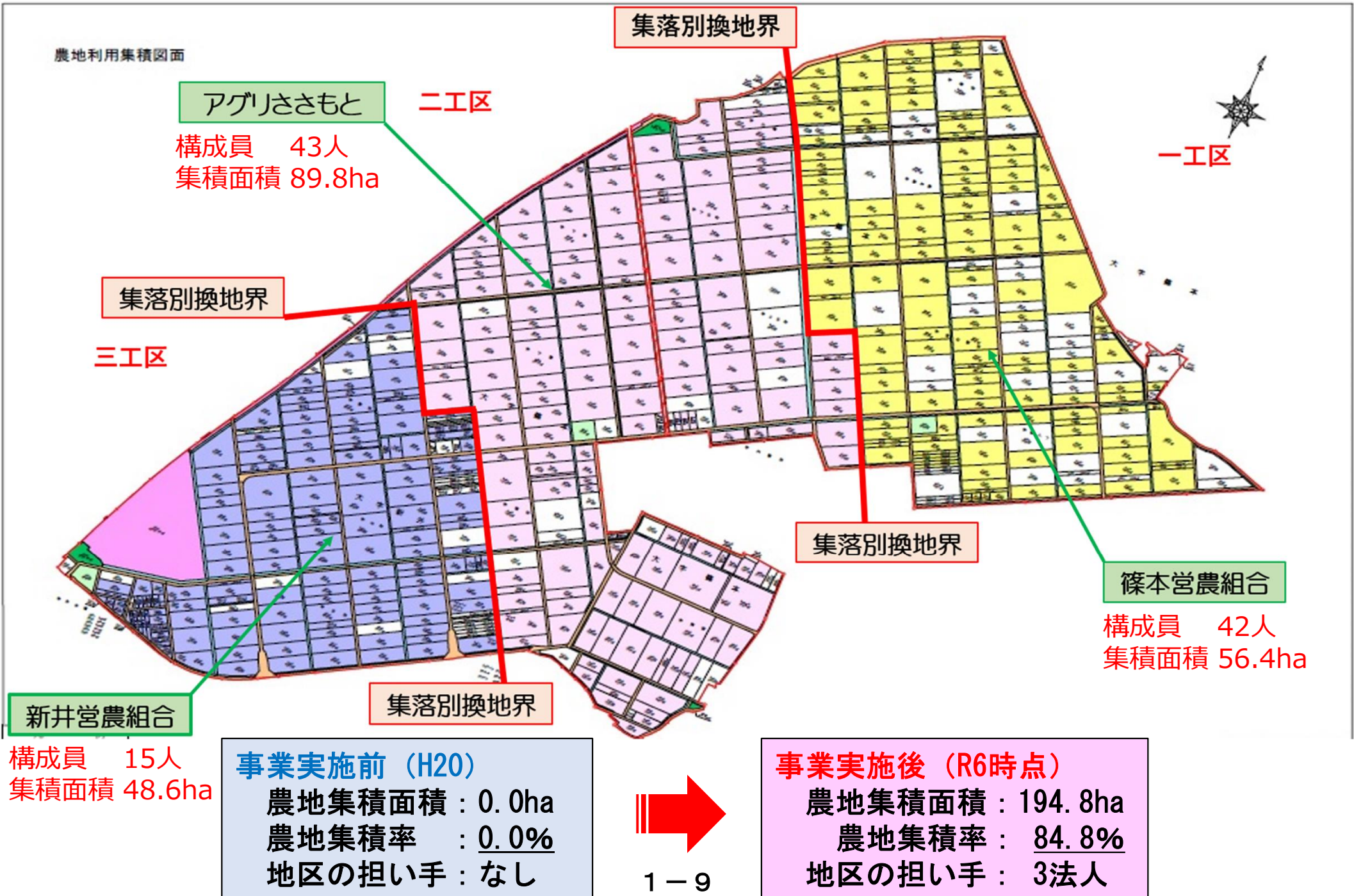
- ・地表・地下かんがい両方が可能
- ・作物に応じた地下水位の管理が可能
- ・通常の暗渠排水としても利用可能

フォアス整備農地での大豆播種



担い手農地利用集積状況図

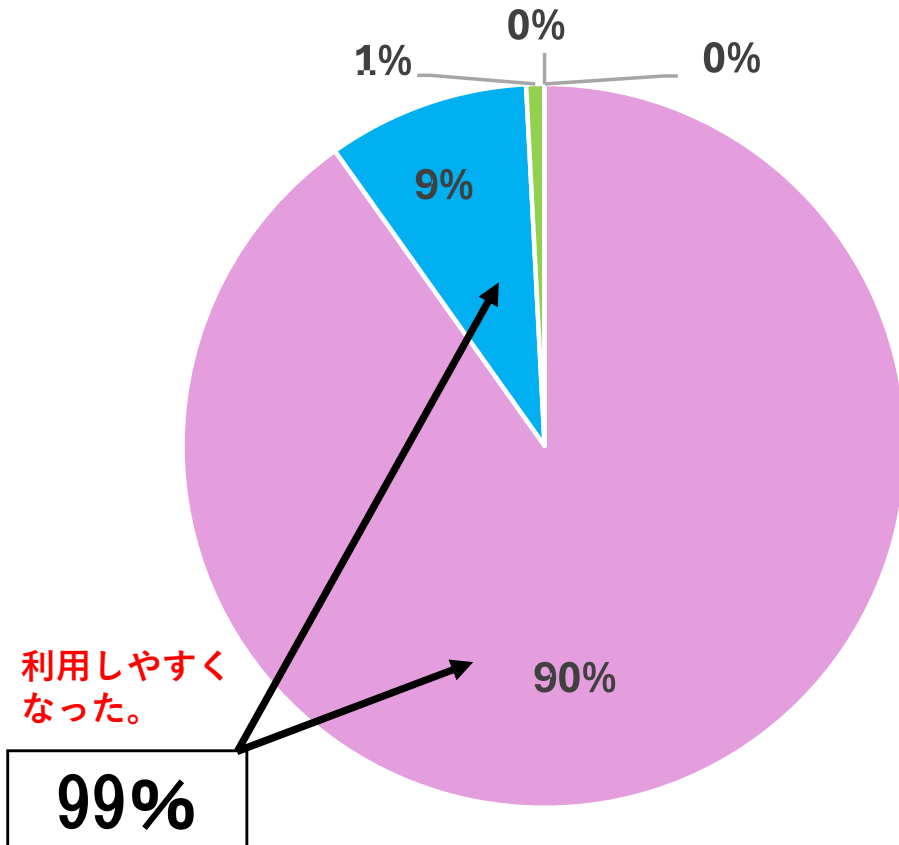
農地利用集積図面



アンケート調査結果①

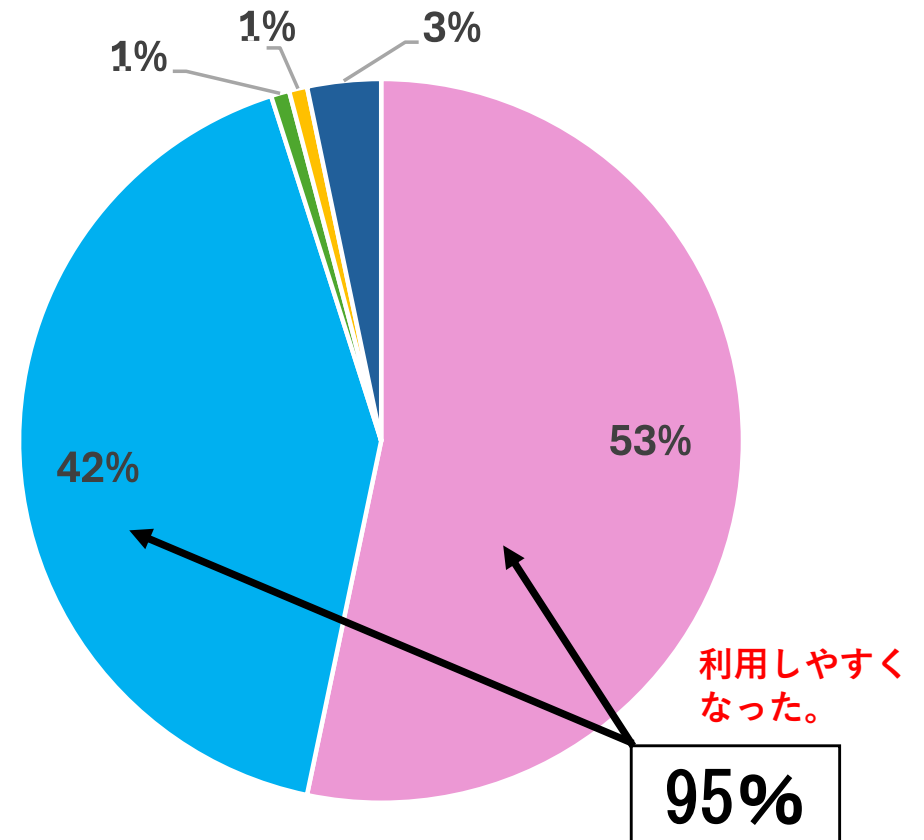
配布者数：法人3組織、個人14名
 回答者数：法人3組織、個人14名（回収率100%）
 アンケート期間：令和7年7月～8月

道路の利用具合



- 非常に利用しやすくなった
- 利用しやすくなった
- 以前と変わらない
- 以前と比べて利用しづらくなった
- 以前と比べて非常に利用しづらくなった

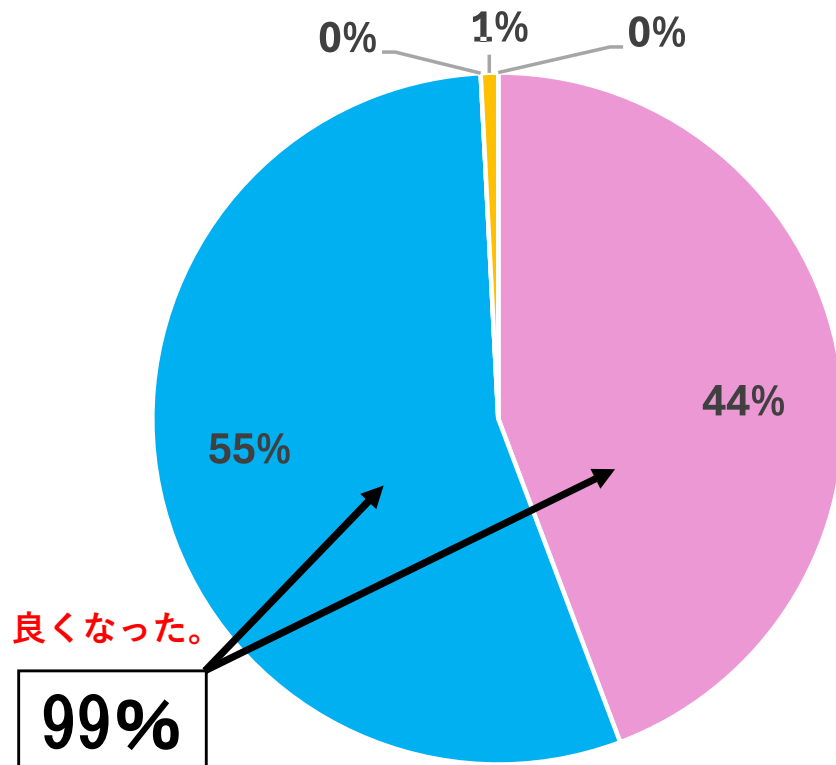
用水（パイプライン）の利用具合



- 非常に利用しやすくなった
- 利用しやすくなった
- 以前と変わらない
- 以前と比べて利用しづらくなった
- 以前と比べて非常に利用しづらくなった

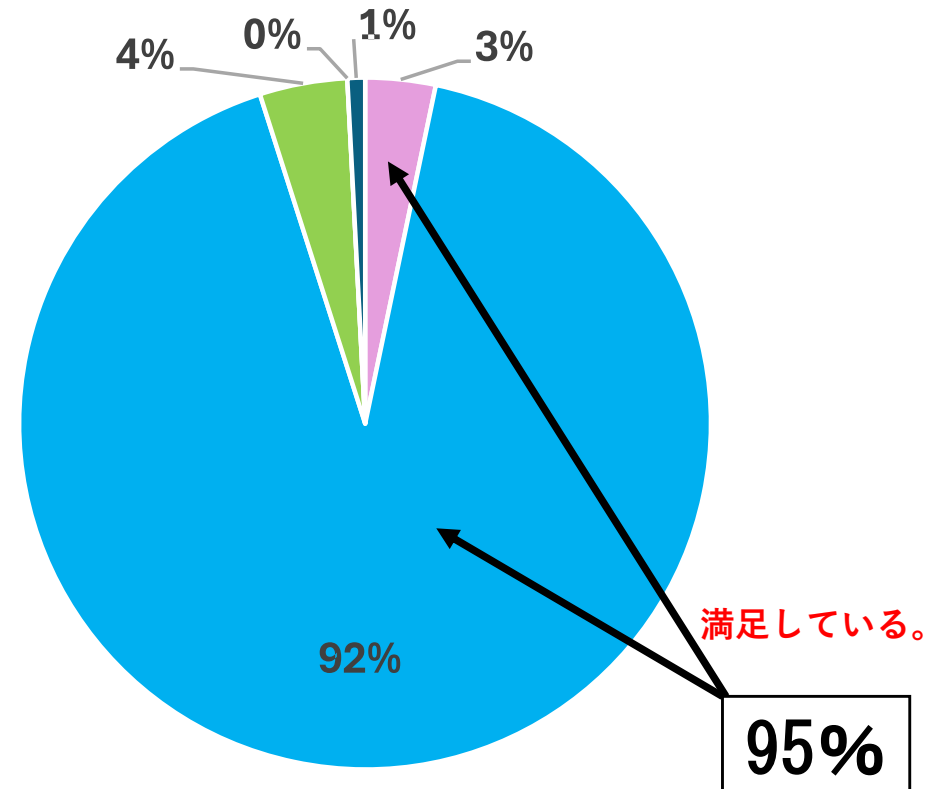
アンケート調査結果②

排水の状況について



- 非常に良くなった
- 良くなった
- 以前と変わらない
- 以前と比べて悪くなった
- 以前と比べて非常に悪くなった

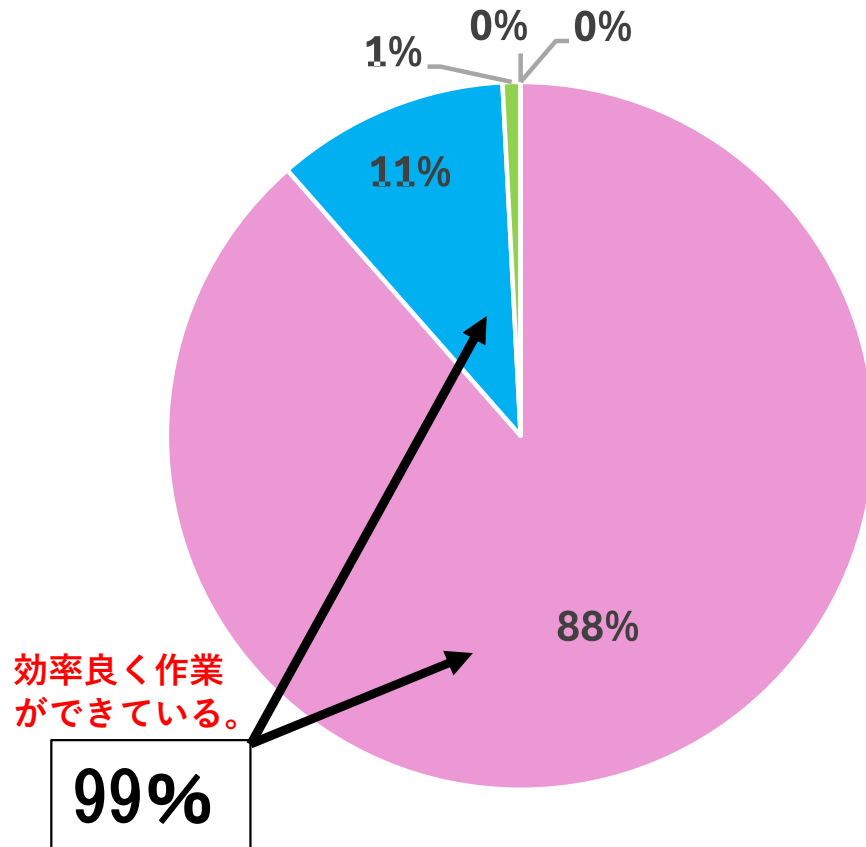
フォアスの利用具合について



- 水管理が容易になり、非常に満足している
- 水管理が多少容易になり、満足している
- 以前と変わらない
- 扱いづらく、不満である
- 扱いづらく、非常に不満である

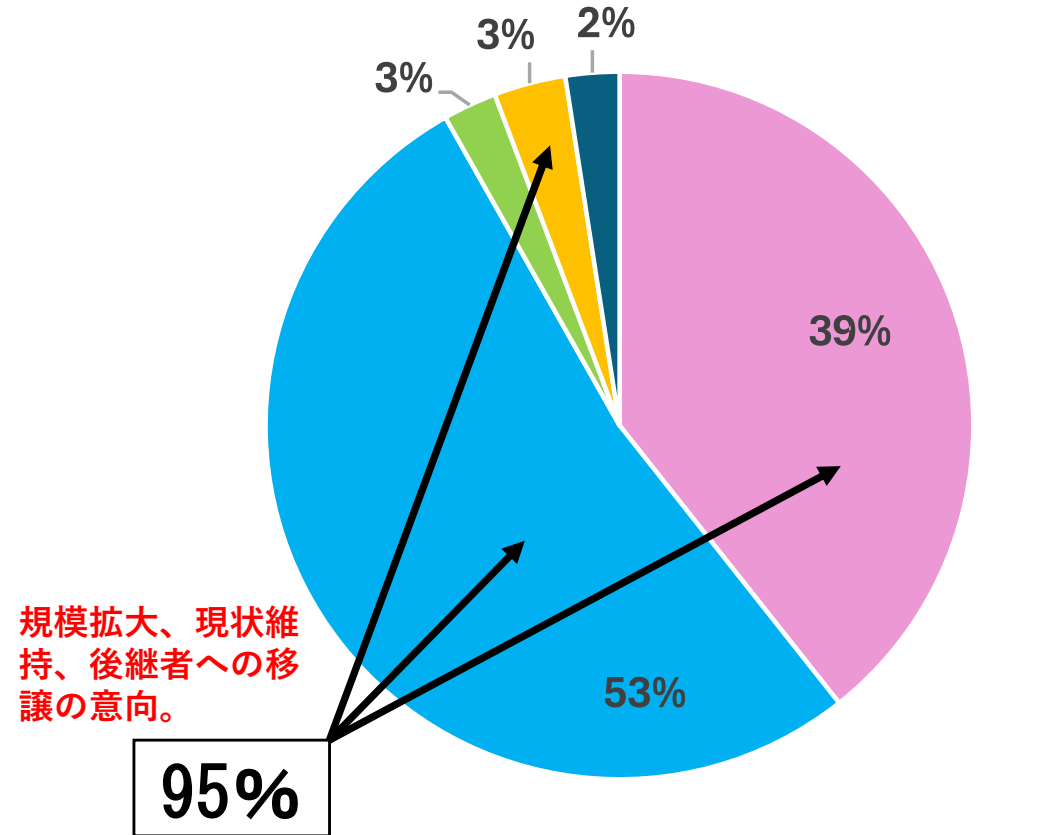
アンケート調査結果③

農作業全体の作業効率について



- 非常に効率よく作業ができている
- 効率よく作業ができている
- 以前と変わらない
- 以前と比べて効率が悪くなった
- 以前と比べて非常に効率が悪くなった

10年後の農業経営について



- 現状より規模拡大していきたい
- 現状の経営規模を続けたい
- 現状より縮小したい。(法人や担い手に貸したい)
- 後継者に経営移譲したい
- 営農をやめたい

アンケート結果（まとめ）

- ①地区内の道路・用排水路について、アンケート回答者の95%以上から、ほ場整備前と比べて利用しやすくなった（良くなった）との回答があり、ほぼ全ての耕作者が、ほ場整備による営農環境の向上を実感している。
- ②ほ場整備後の課題としては、排水路が深くなったことで、除草作業に労力が必要となったことや、用水のパイプライン化に伴う用水配分の調整等が挙げられたが、作業の機械化や、担い手への集積の促進によって、改善を図っている。
- ③事業を契機に営農組織（3法人）が設立され、担い手への農地集積（約80%以上）が進んだことで、耕作放棄地や後継者不足等の問題が解決された。また、法人については、乾田直播やスマート農機（ドローン等）を積極的に導入し、営農の省力化を図っている。

営農組合の取組

作業の効率化、省力化や生産ほ場の維持改善のため、様々な取組を実施

- 水稻の乾田直播栽培の導入
- 防除作業の見直し
(委託共同防除 → ブームスプレーヤー → ドローン)
- ほ場毎の収量計測と施肥の適正化
- フレコンバック出荷
- 補助暗渠（弾丸暗渠）の施工
- レーザーレベラーによる ほ場の均平化
- 耕畜連携による堆肥の投入



レーザーレベラーによる均平作業

ドローンによる防除状況



営農組合の作業状況



大豆の収穫状況



小麦の収穫状況

- ・ 事業と合わせて3営農組織を設立
- ・ ブロックローテーションによる麦、大豆の生産に取り組んでいる
- ・ 令和6年度はネギ0.85ha、麦・大豆60.8haを栽培



水稻の収穫状況



ネギの収穫作業

判定表（面工事に関する事業）

		事後評価の項目	事業評価指標の判定基準					満点	得点方式	判定	得点	備考 <small>(評価項目の判定は、実施地区を基本とするが、統計資料を使用する場合は旧市町村の最小単位を根拠とする)</small>		
			A	B	C	D	E							
		評価 (X)	+2	+1	+0.4	-1	-2							
1 整備された施設管理状況	①施設の利活用	利用状況 《農家アンケート》	2.0～1.5以上	1.5未満～0.5以上	0.5未満～-0.5以上	-0.5未満～-1.5以上	-1.5未満～-2.0	10	(X+2)×2.50	B	7.50	1.44(アンケート加重平均)		
		維持管理状況 《管理者ヒアリング》	2.0～1.5以上	1.5未満～0.5以上	0.5未満～-0.5以上	-0.5未満～-1.5以上	-1.5未満～-2.0	6	(X+2)×1.50	B	4.50	0.6(管理者ヒアリング)		
	②施設の管理	維持管理費の平均値/計画時維持管理費) 《管理者ヒアリング》	90%未満	90以上～95未満	95以上～105未満	105以上～110未満	110%以上	6	(X+2)×1.50	A	6.00	(実)190千円/(計)2,555千円=7.4% (最近5年間の平均維持管理費)		
小計								22			18.00			
2 事業効果の発現状況	①政策面の評価	政策面	認定農業者増加率	100%以上	100未満～50以上	50未満～30以上	30未満～10以上	10%未満	3	(X+2)×0.75	A	3.00	0→3(法人3組織)	
			担い手農地集積率	40%以上	40未満～30以上	30未満～20以上	20未満～10以上	10%未満	3	(X+2)×0.75	A	3.00	0ha→194.8ha	
			耕地利用率	140%以上	140未満～120以上	120未満～100以上	100未満～80以上	80%未満	3	(X+2)×0.75	B	2.25	307.4ha/229.8ha=133.8%	
			農地集団化率	100%以上	100未満～80以上	80未満～60以上	60未満～40以上	40%未満	3	(X+2)×0.75	A	3.00	(従前の団地数－換地後の団地数)/(従前の団地数－地区内の耕作者数)((1058-247)/(1058-363))=116.7%	
				(12)						(11.25)				
		工事面	10a当たり事業費	90%未満	90以上～100未満	100以上～110未満	110以上～120未満	120%以上	2	(X+2)×0.5	C	1.20	(実)2,758千円/(計)2,639.5千円=104.5%	
			工事期間	予定工期で完了	予定工期+1年	予定工期+2年	予定工期+3年	予定工期+4年以上	2	(X+2)×0.5	E	0.00	(実)14年 (計)6年	
			大区画率	25%以上	25未満～20以上	20未満～15以上	15未満～10以上	10%未満	3	(X+2)×0.75	C	1.80	大区画率(1ha以上の区画の割合)18.4%	
			工事内容	90%以上	90未満～75以上	75未満～60以上	60未満～45以上	45%未満	8	(X+2)×2.00	B	6.00	妥当工種数/全工種数 4/5=80%	
				(15)						(9.00)				
		農業面	作付け計画の実現状況	150%以上	150未満～112以上	112未満～87以上	87未満～50以上	50%未満	6	(X+2)×1.50	C	3.60	(実)307.4ha/(計)289ha=106.4%	
			担い手育成状況	150%以上	150未満～112以上	112未満～87以上	87未満～50以上	50%未満	15	(X+2)×3.75	C	9.00	(実)194.8ha/(計)197.9ha=98.4%	
					(21)						(12.60)			
				(48)						(32.85)				
	②総費用総便益比	総費用総便益	農業生産・経営向上効果等	2.0以上	2.0未満～1.5以上	1.5未満～1.0以上	1.0未満～0.5以上	0.5未満	20	(X+2)×5.0	C	12.00	総便益額① 12,794,141千円 総費用② 11,935,009千円 当該事業費 9,996,138千円 その他事業費 1,938,871千円 総費用総便益比①/② 1.07	
			適正事業費率	90%以上	90未満～75以上	75未満～60以上	60未満～45以上	45%未満	10	(X+2)×2.50	B	7.50	3,858千円/4,401千円=87.7%	
								(30)		(19.50)				
小計								78			52.35			
3 総合評価	合計							100			70.35	AA		

80点以上:「AAA」 事業計画以上の効果が得られた。
70点以上:「AA」 事業計画どおりの効果が得られた。
60点以上:「A」 概ね事業計画どおりの効果が得られた。
60点未満:「F」 事業計画どおりの効果が得られなかった。

事後評価表

年度	番号	事業区分	地区名	所在地	事業費	工期	受益面積
R7		経営体育成基盤整備事業	篠本新井	横芝光町	4,811,391千円	H20～R3	229.8ha
項 目		評 価 指 標		基 準	判 定	コ メ ン ト	
1 事業により整備された施設の管理状況		①施設の利活用 《農家アンケート結果》 ②施設の管理 《管理者ヒアリング》 維持管理状況、維持管理費		22	18	①地区内の耕作者（法人（3組織）の構成員、個人14名）を対象にアンケートを実施（3組織及び14名から回答）したところ、結果は概ね良好となった。 ②施設管理者の篠本新井土地改良区からは、排水路が深くなったことで、除草等維持管理に労力を要しているとの意見があったが、用水の維持管理について、支障ない旨の回答を得ている。	
2 事業効果の発現状況	(1)政策面の評価等	①政策面の評価 認定農業者増加率、担い手農地集積率、耕地利用率、農地集団化率 ②工事面の評価 10a当たり事業費、工事期間、大区画率、工事内容の妥当性 ③農業面の評価 作付け計画の実現状況、担い手育成状況		48	32.85	①本事業の実施により、3営農組織に農地集積が進み、農作業の低コスト化が図られた。（農地集積率は、R6末時点で84.8%となった。） ②本事業により、区画拡大が図られ、大区画率が18.4%となった。工事期間については、当初計画より4年以上長期化した。 ③水稻に加えてブロックローテーションによる麦・大豆の作付けを行い、計画通りの実施状況となっている。	
	(2)総費用総便益比等	①総費用総便益比（費用対効果） 農業生産効果 経営向上効果 等 ②適正事業費率の検証		30	19.5	①ほ場の区画拡大により、営農経費が節減され、農業法人（3組織）への農地集積が進んだ。 ②工種ごとの事業費は、概ね妥当であった。	
		小 計		78	52.35		
3 総合評価		合 計		100	70.35		

地区調書

番号	事業区分	地区名	所在地	事業費	工期	受益面積	受益者数	特記事項	総合評価
	経営体育成基盤整備事業	篠本新井	横芝光町	千円 4,811,391	H20～R3	ha 229.8	人 363		AA
(1) 事業の概要	事業の背景			主要工事等			関連事業（令和8年1月現在）		
	①自然的社会条件	②水利条件	③事業実施の経過	整地工 A＝229.8ha （田219.6ha 畑10.2ha） 用水路工 L＝20.0km 排水路工 L＝22.0km（排水機場2箇所） 道路工 L＝24.4km 暗渠排水工 A＝219.6ha			国営両総農業水利事業		
	栗山川沿岸に展開する平坦な水田地帯である。昭和16～20年度に施工された10a区画であり、水路は用排兼用、地下水位は高く、農道は狭くて大型機械の導入が困難である。	本地区は、国営両総用水事業計画受益であり、用水源は確保されているが、地区内は用排水兼用の土水路である。	事業と併せて3つの営農組織を立ち上げ、各組織に農地の利用集積を行い、かつ、法人として、大型機械やスマート農機（ドローン等）を所有し、営農の低コスト化を実現している。						
(2)社会経済情勢の変化(地域社会の動向・地域経済状況)（当初事業評価年度と事後評価年度の比較）					(3) 事業により整備された施設の利用・管理状況				
1 社会情勢の変化		2 地域農業の動向			主要施設概況	整地工 A＝229.8ha 用水路工 L＝20.0km 排水路工 L＝22.0km（排水機場2箇所） 道路工 L＝24.4km 暗渠排水工 A＝219.6ha			
人口、世帯数		(単位:ha、戸、人、ha/戸)				利用・管理状況	篠本新井土地改良区及び横芝光町により適切に管理・運用されている。		
	平成22年	令和2年	平成22年	令和2年	問題・改善等		整備から年数が経過し、造成施設の修繕といった維持管理費の増加が懸念される。		
人口	24,675	22,075	耕地面積	3,330		3,150			
世帯数	8278	8,274	農家戸数	1,415	934				
農業就業人口		農業就業人口							
	平成22年	令和2年	経営面積	2556	2359				
第1次産業	1,420	1,183	認定農業者数	144	129				
第2次産業	2,834	2,592	横芝光町の耕地面積は平成22年から若干の減少はあるものの、ほぼ横ばいで推移している。農家戸数、農業就業人口、経営面積については、減少している。認定農業者数については、若干減少しているが、法人等の担い手への農地集積が進んでいる。						
第3次産業	6,822	6,263							
人口については、減少傾向にある。また、産業別就業人口についても、総人口と同様に減少傾向にある。									
(4)	産地化の状況(営農計画達成状況) 単位ha				効果発現状況等(政策・工事・農業面)		波及的・公益的・多面的効果及び事業実施による環境の変化		
事業効果の発現状況等		事業前	最終計画	完了(R3)	現況(R6)	大区画化により大型機械が導入できるようになり、作業効率が大幅に改善した。 フォアスを導入することで、各作物が生育期別に必要とする地下水位を容易に管理できるようになり、水稻・麦・大豆のブロックローテーションによる農業経営の安定化が図られた。		多面的機能支払交付金を活用し、草刈りや道路・用排水路の補修といった維持管理の負担軽減を図っている。 地元小学生や環境保全会による生き物調査を実施し、環境変化の観測を行っている。	
	水稻	226.1	142.6	136.9	155.2				
	麦・大豆	0.0	55.2	63.5	60.8				
	落花生	1.6	1.6	2.2	0.8				
	ねぎ	0.5	1.5	0.5	0.85				
	小松菜	0	0.4	0.3	0.4				
(5) 今後の課題等	担い手への農地集積が進み、大規模かつ低コストな営農形態が確立されているが、同時に組織の高齢化も進んでおり、後継者の確保が課題となっている。 今後、増加が見込まれる機械装備の更新等に係る維持費や、ジャンボタニシ、ナガエツルノゲイトウなどの特定外来生物への対応が必要となっている。 なお、ジャンボタニシ等への対策として、地区では、給水栓への侵入防止用ネットの設置や、冬期の耕起、水路の土砂撤去といった取り組みを行っている。					備考			

1－18

事後評価結果

事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	篠本新井
着工年度	平成20年度	関係市町村名	横芝光町
事業完了年度	令和3年度	事業主体名	千葉県
<p>〔事業内容〕</p> <p>1 受益面積 229.8ha</p> <p>2 事業費 4,811,391千円</p> <p>3 工期 平成20年～令和3年（14年間）</p> <p>4 事業量 整地工：A=229.8ha 道路工：L=24.4km 用水路工：L=20.0km（パイプライン） 排水路工：L=22.0km（U字溝及びB型柵渠）、排水機場 2箇所 暗渠排水工：A=219.6ha</p>			
内部評価結果	<p>事業の実施により、ほ場の区画拡大と併せて用排水路、暗渠排水（フォアス）及び道路が整備され、大型機械の導入による農作業の効率化や省力化を図ることができた。</p> <p>本地区では、事業を契機に設立した営農組織（3法人）に地区内の80%以上の農地集積が進んでいる。また、事業によって整備された大区画ほ場を活用した水稻・麦・大豆のブロックローテーションを行い、収益性を高めることで、安定的な営農経営を実現している。</p> <p>また、3法人ともにドローン等の導入等、スマート農業への移行を進めており、更なる省力化を進めているところである。</p> <p>以上より本地区は【AA】事業計画どおりの効果が得られている。</p>		